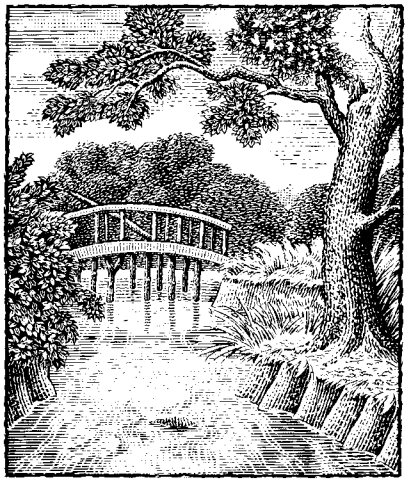


私は何のために生きているのか

物質主義に染まった生き方は死んだような人生。
それは切り株のようだ。
しかし、神が手入れされる人生は
よく生い茂った木のようだ。
箴言11:28(Msg.)

何と幸いなことだろう、主に信頼する人たち。
…その人は川のほとりに植えられ、
流れの中に深く根を下ろした木のようだ。
その木は暑さに悩まされることも、
日照りに苦しめられることもない。
葉はいつも青々と茂り、美味しい実をみのらせる。
エレミヤ書17:7～8(NLT)

すべては神から始まる

すべてのもの、ありとあらゆるもの、
天にあるものも地にあるものも、
目に見えるものも見えないものもすべて…
いっさいのものがキリストのうちに始まり、
キリストの中にその目的を見出すのです。

コロサイ人への手紙一・一六（Msg）

神がおられると仮定しない限り、
人生の目的を問うことには何の意味もない。

バートランド・ラッセル、無神論者

人生はあなたが中心ではありません。

人生の目的は、個人的な達成感、心の安らぎ、幸福といったものよりも遥かに偉大なものです。また、あなたの家庭や職業、夢や野心などよりもずっと偉大なものです。自分がなぜこの地上に存在しているのかを知りたければ、まず神から始めなければなりません。あなたは神の目的に**従って**、しかもその目的の**ために**生まれたのです。

人生の目的というテーマは、何千年にもわたって人々の悩みの種となってきました。その理由は多くの場

合、私たちが誤った出発点、すなわち「自分」から出発してしまうことによります。**私は**何になりたいのか、**私は**何をなすべきか、**私の**目標は、**私の**願いは、**私の**将来の夢は等々、質問の中心にはいつも「自分」が居座っているのです。しかし、自分を中心にして考えていても人生の目的は決して見えてきません。聖書は言っています。「**すべて息あるものを支配しておられる方、それは神である。すべて命あるものは、神の力強い御手の中にある。**」[1]

広く一般的に受け入れられている本や映画、セミナーなどで教えられていることとは異なり、自分の内側をいくら見つめてみたところで人生の目的を発見することはできません。そのようなことは、もうすでに試されたかもしれません。あなたは自分で自分を造ったわけではありませんから、自分が何のために造られたのか、分からないのは当然なのです。たとえばここに、いまだかつて見たこともないような発明品があったとします。あなたはその使用目的を知らないでしょうし、その発明品自体がその使用目的を教えてくれるわけでもありません。発案者、あるいは取扱説明書だけがその目的を明らかにすることができるのです。

自分を中心にして考えていても人生の目的は決して見えてきません。

以前、山で道に迷ったことがあります。途中、目的のキャンプ場への行き方を尋ねてみたところ、「**ここからそのキャンプ場には行けませんよ。**山の反対側から出発しないと」という答えが返ってきました。同じように、自分という間違った出発点から出発していたのでは人生の目的にたどり着くことはできません。あなたの造り主である神が出発点なのです。あなたが今こうして存在しているのは、神がそう願われたからなのです。あなたは神**によって**、そして神**のために**造られました。このことが理解できるまで、人生は決して意味を持ちません。神にあってのみ、私たちは自分の起源、アイデンティティ、意味、目的、重要性、そして行き先を見出すことができるのです。

多くの人が自己実現のために神を利用しようとしますが、それは自然の理に逆らうことであり、失敗に終わるのは目に見えています。あなたは神のために造られました。その逆ではありません。人生とは、**神の**目的のために自分自身を用いていただくことであって、神を自分の目的のために利用することではないのです。聖書は言っています。「**自分に固執していると、やがて行き詰まることになる。しかし神を仰ぎ見ていれば、開放的で、広々とした、自由な人生が目の前に開けてくるのである。**」[2]

私はこれまでに、「人生の目的を発見する」といった類の本を何冊も読んできました。これらはすべて、「自己啓発」に分類される本です。これらの本は皆、自分を中心とした視点で書かれています。この種の自己啓発書においては、それがクリスチャンによって書かれたものであっても、「人生の目的を発見するためのステップ」のようなものを紹介するのが常です。たとえば、自分の夢について熟考する、価値観を明確にする、幾つかの目標を設定する、どんなことが得意かを考える、高い目標を掲げる、とにかくやってみる、自己鍛錬をする、目標を達成できると信じる、人の協力を仰ぐ、あきらめない、等々です。

確かに、これらの提案によって大きな成功を収めるということもあるでしょう。あなたが心に固く決意するなら、たいていの場合はその目標を達成することができるかもしれません。しかし成功を収めることと、人生の目的を達成することは**決して同じではありません。**あなたが自分の個人的な目標を達成し、人もうらやむほどの成功を収めたとしても、神があなたを造られたその目的を忘れてしまっては元も子もないのです。あなたには自己啓発的アドバイス以上のものが必要なのです。聖書は言っています。「**自己啓発は、実際のところ助けにはならない。自己犠牲こそが、自分を――本当の自分を――発見する唯一の道であり、それがわたしの方法である。**」[3]

この本は、自己啓発を奨める本ではありません。自分に合った職業を見つける方法や、夢を実現させる方法や、人生計画の立て方を教える本でもありません。どうしたら、過密スケジュールの中にさらに多くの活

動を組み込めるのかを教えているわけでもありません。むしろ、どうしたら活動を**減らすことができるか**を示しています。それは、最も重要な事柄に焦点を合わせることによって可能となるのです。あなたが神の意図しておられる者になっていくこと、それがこの本のテーマです。それでは、どうしたら自分の造られた目的を知ることができるのでしょうか。選択肢は二つあります。最初のオプションは**思索**という方法です。たいていの人はこの方法を選ぶでしょう。推測し、ある考えを思いついたら、それを理論化するのです。人々が、「私はいつも、人生とは…だと考えてきた」と言う時、彼らは、「私が考える限り、これが最善の憶測だ」と言っているのです。

何千年もの間、偉大な哲学者たちが人生の意味について論じ合い、思索を重ねてきました。哲学は重要な学問であり、有用なものです。しかし、人生の意味を規定するということになると、たとえ最も賢いと言われる哲学者であっても、憶測の域を出ることはないのです。

あなたは神によって、
そして神のために造られました。
このことが理解できるまで、
人生は決して意味を持ちません。

ノースイースタン・イリノイ大学の哲学教授、ヒュー・ムアヘッド博士は世界中の著名な哲学者、科学者、作家、そして知識人ら二百五十人に手紙を書き、次のような質問をしました。「人生の意味とは何でしょうか。」そして、彼らの答えを一冊の本にまとめました。ある人は、その人なりの最善の見解を提供し、ある人は思いつきに頼らざるを得なかったことを認め、またある人は正直に全く見当もつかないと答えたそうです。それどころか、多くの知識人たちがムアヘッド教授に対して、もし人生の目的が分かったら教えてほしいという返事を書いてきたと言います。[1]

幸いなことに、思索によって人生の意味と目的を知ろうとする方法よりも、もっと良い方法があります。それは**啓示**による方法です。私たちは、神が聖書を通して人生について啓示しておられる事柄に目を向けることができるのです。ある発明の目的を知るための最も簡単な方法は、その発案者に直接尋ねることです。人生の目的を発見する方法も同様です。神に尋ねるのです。

神は私たちを、憶測と思い込みという暗闇の中に取り残されたわけではありません。神は聖書を通してはっきりと、人生の五つの目的を明らかにされました。聖書は人生の取扱説明書であり、そこには私たちの生きる理由、人生のからくり、避けるべきこと、将来に何を期待すべきかなどが説明されています。自己啓発や哲学によっては知ることのできないようなことが教えられているのです。聖書は言っています。**「神の知恵は…神の目的の深遠にまで及んでいます。…それは新しいというよりも、最も古くからある教えであって、神が、私たちのうちから最高のものを引き出す方法とみなしておられるものなのです。」**[2]

神はあなたの人生の出発点であるというだけでなく、人生の**源**です。人生の目的を見出すためには、この世の知恵にではなく、神の御言葉に耳を傾けなければなりません。人生は流行りの心理学や成功哲学や寓話の上にではなく、永遠の真理という土台の上に築き上げていかなければならないものです。聖書は言っています。**「キリストにあってのみ、私たちは自分が何者であり、何のために生きているのかを知ることができるのです。私たちが最初にキリストについて聞き、希望を持つようになる遥か昔から、主は私たちに目を留め、私たちに輝かしい生き方を用意しておられました。すなわち、あらゆる事柄の中に、またすべての人の中に働いておられる主の大いなる目的の一部を私たちが担うようにと計画しておられたのです。」**[3] この箇所を通して、人生の目的に関して三つのことを教えられます。

一、あなたのアイデンティティと人生の目的は、イエス・キリストとの個人的な関係を通して見出されるものです。もしあなたが、まだそのような関係を持っておられないなら、どのようにその関係を始めることができるのかを後ほど説明します。

第1日
私の目的について考える

熟考するポイント

人生はあなたが中心ではありません。

覚える聖書箇所

「いっさいのものがキリストのうちに始まり、キリストの中にその目的を見出すのです。」

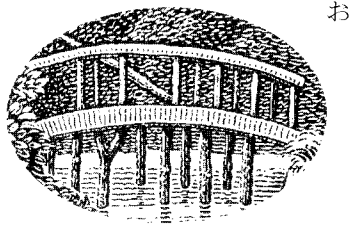
コロサイ人への手紙1：16b（Msg）

考えてみましょう

私たちは様々な宣伝や広告に取り囲まれて生きていますが、そのような環境の中にあっても、人生の目的は自分のために生きることではなく、本当は神のために生きることなのだと思い起こしていくためにはどうしたらよいでしょうか。

一：神は、あなたが神のことを考えるようになるずっと以前からあなたのことを考えておられました。事の始まりは、母親があなたを身ごもる前にさかのぼります。あなたが存在する以前に、あなたの意識外のところで計画が立てられました。あなたは、自分の仕事や配偶者、趣味、その他人生における様々な事柄を選択することができるかもしれませんが、人生の目的を選ぶことはできないのです。

二：あなたの人生の目的は、測り知れないほど遠大な、宇宙大の目的と合致するものです。神によってデザインされたこの目的は、永遠の目的です。これこそ、この本が扱っているテーマです。



ロシアの小説家、アンドレイ・ビトフは無神論の共産主義統治下で成長しました。それは、ある物寂しい陰鬱な日のことでした。神の存在が彼の心を捕らえたのです。当時のことを彼は次のように回想しています。

「当時二十七歳だった私は、レニングラード（現在のサンクト・ペテルブルグ）で地下鉄に乗っていましたが、失望があまりにひどく、何か押し潰されてしまいそうで、人生が突然止まってしまったかのように感じていました。将来なんてあってないようなものでしたし、人生に何の意味も見出せずにいたのです。すると突然、何の前ぶれもなく、**神がおられないなら人生には何の意味もない**、というフレーズが現われたのです。驚きながら、そのフレーズを何度も頭の中で繰り返しているうちに、私はその言葉に乗ってあたかもエスカレーターを上っていくかのように、地下鉄を出て神の光の中に向かって歩き出していたのです。」

あなたは、人生の目的など分かるはずもないと思ってこられたかもしれません。しかし喜んでください。あなたは今まさに光に向かって歩き出そうとしておられるのです。